

特別寄稿

市民社会の実現をめざす教育とは

本誌は今年で40号という節目の発行になるとのことで、おめでとうございます。私は定年退職し、本学教職課程での教員養成の仕事から離れて4年ほどになりますが、本誌の創刊当初から関わってきたものとしてなかなか感慨深いものがあります。この間、多くの卒業生を教師として教育の現場に送り出してきましたが、本誌がそのための一助になっていることを確信しています。特に、「卒業後の私」などのコーナーに寄せられた先輩方の苦労話や活躍談は、おおいに後輩の動機づけになってきたのではないのでしょうか。

ところで、今井先生から記念すべき40号になにか寄稿をと依頼され、教師となって現場で活躍している卒業生の何人かを思い浮かべながらあれこれ考えているうちに、日本の教育の現状やそれをとりまく日本社会全体の姿が気になってきたので、それについて少し俯瞰的な立場から述べたいと思います。

2018年発行の「教育現場の7大問題」という本があります。著者はフリーのジャーナリストで前屋毅という人です。初等中等教育の現場を中心に教師や保護者に広く取材し、最近の教育現場の実態がよく分かる内容になっています。これをみると新自由主義が教育の現場にも浸透してきて、その弊害がかなり目立ってきた印象があります。個々の教師は、競争原理や成果主義のなかで過重労働によるストレスで苦しんでいて、うつ病などの精神疾患に陥ることも多いようです。教育本来の目標を達成するための激務ならまだしも、どうも経済界からの要請だっ

別府大学教職課程委員会 前委員長

別府大学名誉教授 川瀬 泰治

たりきわめて実利的な目的を重視してのことのようです。その結果、教師たちは子どもたちと向かい合う時間がどんどん減少し、子どもたちも全国学力テストなどで試験の得点をあげるためだけの学習に駆り立てられている。これでは本学の卒業生はじめ、学校教育に理想を抱いて教師の道を選んだ若者にとって残念だというだけでなく、次代を担う子どもたちの健全な育成もままならぬということになり、ひいては日本社会の将来も危うくなりかねません。

このような状況を変えて教育本来の姿を取り戻すためには、社会全体の意識の改革も必要ですが、まずは現場の教師が率先して一步を踏み出すべきだと思います。しかし、この本によれば、多くの教師はそのような問題意識をもっている、なかなか行動に移せず不本意な教師生活を強いられているようです。このような状況の中で教師たちがなぜ声をあげられないのか。そこにはまず背景として日本全体を覆う前近代的な「世間」というものがあり、教育の現場ではそれがより先鋭化しているからではないかと思われます。日本が真の先進国になるためには、まずこの世間の意識から脱却しなければならないと思います。

日本は明治以降、西欧の学問や文化を輸入して近代的な国家を実現しようとし、その一環として日本古来の共同体意識である世間に替えて西欧式の「社会」を実現しようとしてきました。ところが日本世間学会の創設者であり歴史学者の阿部謹也氏によれば、明治以来150年ほどになるが日本には社会が実現し



空気を読む

ていなくて、今だに世間が支配しているとのことです。社会 (society) というのは、市民 (civil) が互いに契約や法によって関係を結ぶ集合体であり、市民とは行動の基準を内面に持って行動する自立した個人 (individual) です。日本にはそもそもそのような市民がないので社会がなりたたないのだということです。そして市民が主体となる社会では民主主義が当たり前ですが、当然日本には民主主義も実現されていないということになります。世間においては曖昧な「空気」によってものごとが決まり、責任の所在が不明確となります。そのため問題の根本的解決が困難になります。また世間には個人がないので、個人の尊厳や人権がないがしろになりがちです。

日本世間学会 (佐藤直樹氏ら) によれば、新自由主義と一見矛盾するようですが、なぜか1990年代あたりから世間意識がさらに強まっているとのことです。確かに、このところ世間に特有の「忖度」や「KY (空気を読む)」という言葉をよく聞きますし、呪術的儀式としての謝罪会見などもしゅちゅう見かけます。世間から外れた者に対する熾烈ないじめも世間特有ですが、子どもだけでなく教師を含む大人たちの間にも蔓延しています。

世間の意識や感覚は、主として小学校から始まる学校生活の場でのやりとりを通じて、子どもたちが徐々に身につけていくものだと思います。子どもたちと日頃接する教師がまず世間からの脱却を図り、自立した個人の姿を子どもたちに示すことが必

要でしょう。そのためには、まず自らがどっぷりとつかっている世間というものを対象化し、それに抗うことが第一歩となるでしょう。教育基本法に掲げられている「子どもたちの人格の完成を目指し」、「平和で民主的な社会を実現しよう」とする教育の本来の姿を取り戻すために、教職を目指すみなさんにはこのことを心の片隅に留めておいてもらえたらと思います。

